日本作業療法士協会主催　2025 年度日本パラスポーツ協会公認
中級パラスポーツ指導員養成講習会　実施報告書

地域社会振興部　地域事業支援課　スポーツ振興班

2023 年と 2024 年に続いて、本会主催で 3 回目の中級パラスポーツ指導員養成講習会を開催しました。2025 年度は日本パラスポーツ協会とご相談を重ね、これまでに開催していない地域（中四国・九州エリア）を検討し、最終的に福岡県で実施することにしました。

募集要項

研修分類	重点 教育部
概要および目的	＜概要＞ 座学（オンライン）　2 日間（15 時間） 実技（対面）　　2 日間（14.5 時間） ＜目的＞ 日本パラスポーツ協会公認中級パラスポーツ指導員資格を取得するための研修を実施することで、作業療法士が積極的にパラスポーツ支援に関わり、パラスポーツ団体、パラスポーツに関わっている人、パラスポーツに取り組む当事者に、作業療法士の役割を認知していただく。また、地域でスポーツ支援ができる人材を増やすと同時に、地域での活動環境を整えていくことを目標とする
対象者 （応募資格）	今後継続的にパラスポーツに関わりたいと考えている作業療法士で、公認資格取得後の追跡調査（アンケート）にご協力いただける方
日程	9 月 13 日 8:40～18:30（受付 8:20～）　オンライン 9 月 14 日 9:00～18:20（受付 8:30～）　オンライン 11 月 29 日 9:30～18:45（受付 9:00～）　対面 11 月 30 日 9:15～17:00（受付 9:00～）　対面
場所	実技（11 月 29 日・30 日）：福岡県春日市原町 3-1-7
参加費	￥19,500（4 日間の受講費+テキスト代）

募集期間と申込結果

2025 年 5 月～8 月で募集を行い、協会ホームページ、機関誌等で広報活動を実施しました。定員 40 名に対して 42 名の応募があり、最終受講生は 41 名でした。昨年度に引き続き定員を超える応募をいただいたことを嬉しく思います。

開催結果

9 月 13 日・14 日に座学(オンライン)を行い、11 月 29 日・30 日に実技(対面・福岡県)を開催しました。41 名全員が最終課題（レポート提出）を通過し、全ての課程を修了しました。

総括

本年度の実技では、精神疾患の方への体調評価、チームビルディング、失敗経験のない練習方法などの内容などが講習に盛り込まれ、作業療法士の有用性が伺える講習となりました。「障がい者スポーツ指導における留意点と工夫の講義」（講師：坂本宣昭先生）では道具の工夫や車いすを使うなど実際に障がい体験を行うことで当事者の心理を読み取り、支援に活かす方法を学べました。福岡市の「障がいについて考えよう」リーフレットは、障害を個人の問題ではなく環境や社会の課題として捉える社会モデルを示し、ICF の視点に基づいています。社会制度や公共環境に存在する障壁が、障害のある人の平等な機会や移動・行動などを妨げている点に留意し、環境整備の重要性を示しています。ボッチャ競技（講師：山下悟先生）では、空調や水分補給、コミュニケーションツールなど環境設定の重要性と、重度脳性麻痺者や四肢重度機能障害者に対するリスク管理について理解が深まりました。車いすバスケットボール（講師：高木富士男先生）では、クラス分けの仕組みを詳しく学び、作業療法士としての介入の可能性を理解するとともに、実技体験を通して競技理解を深めることができた。また、「パラスポーツの生活化に向けた実践事例の検証（演習）」（講師：作業療法士 田中栄一先生）では、スポーツ支援の事例を通して作業療法士による具体的な支援と工夫点の分析を行いました。スポーツを特別なイベントやリハビリ場面だけでなく、その人らしい日常生活の一部として無理なく意味を持って続けられるようにするグループワークは地域での活動に活かせます。「最重度の障がい者のスポーツ」（講師：小手川郁人先生）や「車いすバスケットボール」（講師：山野洸平先生）の講義では対面で実際に身体を動かしながら考えることにより、受講生が非常に積極的に取り組んでいる様子がうかがえました。

今年度も養成講習会を開催したことで、受講生から多くのご意見や活動情報を提供いただきました。実践報告書（最終レポート）では多種多様な領域で本会会員がパラスポーツ支援活動に取り組んでいるころが分かりました。各地域でのスポーツイベント、精神科病院、特別支援学校、司法領域、養成校の授業など作業療法士が関わるパラスポーツ領域が広がってきていることを実感しました。

日本作業療法士協会の作業療法士対象カリキュラム

領域	講習科目	内容	時間
医療	障がい各論	各種障がいに関する医学的・心理的な特性を学び、日常生活やスポーツ現場で関わるうえでの留意点について学ぶ。視覚障がい（1.0h）、聴覚・音声言語障がい（1.0h）、知的障がい(発達障がいを含む)（1.5h)	3.5
体育学	スポーツの意義と価値 （※演習含む）	スポーツが本来もつ、身体的・文化的・社会的な意義や価値について学ぶ。また、障がい者にとってのスポーツの意義と価値についても学ぶ<演習：スポーツのインテグリティについて話し合う>	1.5
	スポーツ心理学	障がい受容について受傷からの心理的プロセスを学ぶ。さらに障がい者の体験談を通して、スポーツの心理的効用と心理的支援の方法について学ぶ。	1.5
	トレーニングの基礎知識	各種トレーニングの特徴を理解し、障がいに留意したトレーニングプログラムに組み立て方や実施上の留意点について学ぶ。	1.5
障がい者スポーツ	パラスポーツと作業療法士	作業療法士として、パラスポーツの造詣を深めるとともに、関わる意義やその方法について学ぶ。また、公認パラスポーツ指導者制度の概要を学び、指導者の役割についても学ぶ。	1.5
	地域におけるパラスポーツ振興	パラスポーツに関わる競団体や関係所管について理解し、連携することの必要性について学ぶ。	1.5
	全国障害者スポーツ大会の概要	我が国のパラスポーツを知る上でその歴史的な背景も含め、全国障害者スポーツ大会の概要（実施競技を含む）を学ぶ。また、大会に参加するスタッフの役割についても学ぶ。	2.0
	全国障害者スポーツ大会 の障害区分	全国障害者スポーツ大会の障害区分を正しく理解し、障害区分を判定する際の留意事項等を学ぶ。	1.5
	障がい者のスポーツ指導上の 留意点と工夫	各障がいに応じた指導の事例を通して指導上の留意点（リスク管理を含む）について学ぶ。	2.0
	補装具の理解	補装具の種類や特徴を学ぶとともに、指導者として最小限知っておくべき事柄やスポーツ指導現場での留意点を理解する。	1.5
実技・実習	視覚障がい者のスポーツ実習	視覚障がい者が行うスポーツの体験を通してその種目の楽しさやルールを学ぶとともに、介助法（手引）やコーチング（方向指示・言葉かけを含む指導）の仕方を含め、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	1.5
	最重度の障がい者のスポーツの実際（重症心身障がい児・者を含む） （※見学・実技可）	最重度の障がい者（重症心身障がい児・者を含む）のスポーツを理解し、様々な創意工夫の実例について学ぶ。	2.0
	全国障害者スポーツ大会 実施競技の実習	全国障害者スポーツ大会の実施競技を体験する中で、その競技特性やルールについて理解を深め、障がい者がスポーツを実施する際の指導上の留意点について学ぶ。（他実習と時間と実施競技が重ならないようにする）	6.0
	パラスポーツとMTDLP	パラスポーツの実践事例を紹介し、ケーススタディーを通して、身体評価、残存能力の評価等に加え、実践するスポーツの競技特性の理解や自助具等の環境設定等により、障がい者のスポーツへの適用について考える。	2.0
レポート	活動実績報告	パラスポーツに関わるきかけ作りとして、講習会終了後に個別に地域でのパラスポーツに関わる活動をし、その内容をレポートにまとめ提出する。	講習後作成提出
備考	講習会の中で、グループワークやアクティブラーニングを通じてコミュニケーション能力の向上をめざす。		29.5

日程表

2025年度 日本パラスポーツ協会公認　中級パラスポーツ指導者養成講習会　日程表（予定）

	場所	日程	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
前期	オンライン実施	9月13日（土）	8:20～受付 8:40～開講式	9:00～10:30（1.5H） パラスポーツと作業療法士 うめだ・あけぼの学園 作業療法士　酒井 康年	休憩	10:40-12:10(1.5H) スポーツ心理学 アネックス湊川ホスピタル 作業療法士　小黒 修	12:10-12:50 昼食	12:50-13:50（1H） 障害各論 （視覚障害） おおたけ眼科小手指医院 院長　林 知茂	休憩 14:00-15:00(1H) 障害各論 （聴覚・音声言語障がい） 筑波技術大学 中島 幸則	休憩 15:10-16:40(1.5H) 障害各論（知的障がい，含・発達障がい） 東京保健医療専門職大学 作業療法士　畠山 久司	休憩	16:50-18:20 (1.5H) スポーツの意義と価値 （演習） 京都橋大学 作業療法士　中井 秀昭	18:30 閉会
		9月14日（日）	8:30～受付	9:00～10:30（1.5H） 補装具の理解 日本作業療法士協会　副会長 作業療法士　大庭 潤平	休憩	10:40-12:40(2H) 全国障害者スポーツ大会の概要 鹿児島県身体障害者福祉協会 障害者スポーツ部長 前田 究	12:40-13:20 昼食	13:20-14:50(1.5H) 全国障害者スポーツ大会の障害区分 鹿児島県身体障害者福祉協会 障害者スポーツ部長 前田 究	休憩	15:00～16:30（1.5H） トレーニングの基礎知識 山口コ・メディカル学院 作業療法士　徳若 雅之	休憩	16:40-18:10(1.5H) 地域における パラスポーツ振興 笹川スポーツ財団 政策ディレクター 小澤 和也	18:20 閉会
後期A	福岡クローバープラザ	11月29日（土） 体育館 セミナールーム		9:00～受付 9:30-11:30(2H) 全国障害者スポーツ大会実施競技 （実技：ボッチャ） 北九州市障害者スポーツセンター アレアス 山下 悟	11:30～12:15 昼食	12:15～14:15（2H） 全国障害者スポーツ大会実施競技 （実技：車いすバスケットボール） 特定非営利活動法人日々草 発達療育モンテ 山野 洸平	休憩	14:30～16:30（2H） 全国障害者スポーツ大会実施競技 （実技：陸上） 福岡パラスポーツ指導者協議会 会長　小手川 郁人	休憩	16:45～18:45（2H） 最重度の障がい者のスポーツ （実技：バレーボール等） 福岡パラスポーツ指導者協議会 会長　小手川 郁人		
		11月30日（日） 体育館 セミナールーム		9:00～受付 9:15～10:45（1.5H） 視覚障がい者のスポーツ （実技：5TT、伴走等） 西日本短期大学 教授 高木 富士男	休憩	11:00～13:00（2H） 障がい者のスポーツ指導上の留意点と工夫 （実技・演習） 福岡市社会福祉事業団 坂本 宜昭	13:00-13:45 昼食	13:45～15:45（2H） パラスポーツの生活化に向けた実践事例の検証（演習） 北海道医療センター 作業療法士　田中 栄一 （助手：田口 剛之）	休憩	16:00～閉講式	16:30 解散		

2026 年度以降について

中級パラスポーツ指導員の講習会開催は、2026 年度はお休みとなります。2027 年から 2031 年度までは隔年で中級講習会を開催し、講習会を開催しない年にはフォローアップ講習として中級指導員を取得された会員や全会員を対象に単日で実践報告会やワークショップ（対面またはオンライン）を開催する予定です。引き続き日本パラスポーツ協会とも連携を図り、講習会の継続開催を目指していきますので、皆さまには引き続き関心をお寄せいただきたく思います。

謝辞

本講習会の開催実現にあたり、日本パラスポーツ協会の皆様の継続的なご指導とご助言、また、福岡県障がい者スポーツ協会様には講師の紹介・調整、会場・備品の予約手配、当日の運営など、細部にわたるご支援ご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。そして、本講習会の趣旨を理解し快くご協力くださった、座学と実技の講師の皆様に心から感謝いたします。誠にありがとうございました。

2025 年 3 月



写真：「最重度の障がい者のスポーツ」での様子